

第1回 千代田区公園・児童遊園等整備方針検討会

議事要旨

日時	令和5年7月27日(木)17時00分～19時00分
会場	千代田区役所8階 第3・第4委員会室
出席委員	4名
議題	公園・児童遊園等の現状と課題について

議事要旨

- 開会
 - 委嘱状交付
 - 委員の紹介
 - 会長の選出
- ⇒会長は中井委員とする。

資料説明(事務局より)

公園・児童遊園等の現状と課題について

- 資料5に基づき、公園・児童遊園・広場の利用者状況について説明された。
- 資料6の整備方針の改定スケジュール、方針の位置づけ、千代田区の人口動向、公園面積の現状、公園・児童遊園・広場の位置関係について説明された。

意見概要

- 利用者の属性により使い方が異なる。異なる属性の人たちが共存できたり、時間的に使い分けられたりして、公園で過ごすことが生活の一部になるとよい。
- 今、十分に使われている公園は、利用目的や利用者が明確である。公園それぞれの使い方や設計の意図を利用者に共有しておくことが重要である。
- 地域の潜在的な利用者を想像した上で地域の特性と公園のあり方の関係を整理し、計画に反映することが重要である。
- 公園は個別に管理され作られていることが課題であり、子どもたちの需要に応えるためにもコミュニティの視点で議論する必要がある。
- 利用目的や年齢の異なる利用者と共有しながら一つの空間を利用することは空間設計だけでは難しい。ソフト(運営方法)の取り入れ方を今後考えていかななくてはいけない。また、マネジメントの主体や仕組みを地域にどう共有するかについても検討する必要がある。
- それぞれの役割を持たせて特色ある整備を行うことは非常に重要な視点である。
- 年齢の低い子どもたちを優先させるときに運営の力が必要になってくる。年齢の異なる子ども達のニーズがある中でどう運営していくのが課題である。
- 不特定多数の誰かのための公園ではなく、まずはこの千代田区に住んでいる子どもたちのために、どういう空間があるか意識する必要がある。
- 一般論として、みんなのためと考えることは逆に、誰のものでもないものを生んでいるという構造がある。
- 計画だけではなく実際に並行して実行することは、とても画期的であり、実際に公園作りを

意識しながらの議論というのは、とても大切である。

- 大人のための良い風景、空間は千代田区には一定程度存在するため、まずは子どもや高齢者やより弱い人たちにとっての優先席的な公園整備を進めるべきで、具体的にどのような機能・クオリティを持つべきなのかは、先行パイロット事業※の話題の中で議論をすると良い。(※先行パイロット事業:整備方針改定の検討と並行し、新方針の骨格を想定しながら、試験的に公園改修を実施する取組み。特に子どもの遊べる空間の拡充を目標に、本格事業移行時に生じる問題点の把握、移行のためのノウハウの取得、移行後の運用状況の確認などを行なう取組み。)
- パイロット事業は空間のデザインだけではなく、運営の仕組みについてもできると良い。
- 子どもや高齢者、エッセンシャルなニーズを持つ人々にとって公園は重要な場所であることを意識して、それらの層がより良い利用ができるよう特徴づけを行うことが重要である。
- ・現在の公園には多くの禁止事項があり、地域の人々がどのように過ごせば良いのか分かりにくい場合もある。今後、千代田区の公園が特徴づけられる際には、制限だけでなくプラスの情報も積極的に提供することが重要である。これによってコミュニティが形成され、よりよい地域性が形成されることも期待でき、地域全体の活性化にもつながる。
- 「千代田区公園できることマップ」のようなものがあると良い。
- 空間の多様性、機能への対応性、運営管理、利用主体のパターンを整理しながら議論をまとめたら良い。
- 排他的なアクティビティと共存できるアクティビティを整理する必要がある。特定のアクティビティが強い排他性を持つ場合でも、そのコミュニティが自律的に活動し、時間の制約を設けたり、他の世代に教える姿勢を持ったりすることで、他の利用者との調和や共存が生まれる可能性がある。
- アンケート結果分析についてはクロス集計もお願いしたい。

その他(事務局より)

次回の検討会が10月31日火曜日、午前の10時、この千代田区役所で開催となることを報告した。

閉会